

# 幸せを実感できるまちづくり

令和5年度の加古川市は「加古川ならではの魅力づくり」と「社会課向上を目指してきました。国で「デジタル田園都市国家構想実現に向  
南雲さんに市の取り組みについての意見や感想

題の解決にチャレンジ」に取り組み、一人一人が実感できる幸福感の  
けた地域幸福度指標の活用促進に関する検討会」の委員をされている  
などを伺い、幅広いテーマで話し合いました。

岡田 康裕 市長

小林 直樹  
市議会議長

なくも たけひこ  
南雲 岳彦さん  
一般社団法人スマートシティ・  
インSTITUTE専務理事

加古川市のウェルビーイングに  
関する政策アドバイザーを務め  
る。地球環境と市民が共存し、誰  
もが幸福になれるグリーン&デ  
ジタルなまちづくりに従事。

## にぎわいの復活と 幸せへの探求

市長 昨年は新型コロナウイルス  
が5類に移行されました。地域の  
祭りやイベントが復活して、にぎわ  
いが戻ってきましたね。

議長 学校や地域の行事も再開  
し、議長として出席する機会も増  
えました。昨年は県市議会議長会  
の研修で、日本と世界の幸福度の  
比較や市民意識調査から見える市  
の特徴などについて、南雲さんの講  
演を聞かせていただきました。

南雲 昨年は「ウェルビーイング」  
について講演する機会が増えまし  
た。コロナ禍での不安やインフレ、  
猛暑、そして世界情勢：不安感が  
急激に増している世の中で、皆さん  
の「何をよりどころにしたら良い  
の？」との思いが強くなった年だっ  
たと思います。

市長 物価高騰が続く、経済的な  
不安から給付や負担軽減などの対  
策に関心が集まった年でもありま

うにつながっているかを知りたい  
と思っていました。

南雲 ウェルビーイングとは「人々  
の幸福感」のこと。私は「何が人の  
幸せにつながるのか」という要因を  
見つけ出すために、ウェルビーイン  
グを数値化する指標を作ろうと考  
えました。

指標は自治体ごとに必要だと考  
えていた際、加古川市は最初に市  
民意識調査にウェルビーイングの  
内容を取り入れた質問を作ってく  
ださいました。他自治体が後に続  
き、ウェルビーイングを考える輪が  
大きく広がっています。

### CHECK!

#### 市民意識調査

市の取り組みや今後のまちづくりの方向性  
についてのアンケート調査。無作為で選んだ  
市民の皆さんを対象に行い、令和4年度から  
ウェルビーイングに  
ついての質問を取り  
入れている。



くわしくは  
こちら

### CHECK! ウェルビーイング Well-Being

人々が身体的・精神的・社会的に満  
たされた状態が続くこと。幸福感。自  
分らしさや地域での人間関係、景観  
や都市機能などさまざまな要因の組  
み合わせで成り立つ。

### 「幸福度を測る」こと

市長 市では、長年実施している  
「市民意識調査」で、市の取り組み  
について、満足度と重要度を調査し  
ています。以前からこの満足度と重  
要度が、皆さんの幸福度とどのよ  
うな関係があるのかを考えています。

議長 幸せは人によって違うので、  
市全体で見ることができれば新た  
な発見がありそうですね。  
ウェルビーイングの要因が何な  
のかは、国や地域によって違うので  
しょうか。

南雲 はい。まちの特徴によって幸  
せの要因は違います。自分たちのま  
ちのウェルビーイング指標があれ  
ば、どうすればまち全体の幸せを  
高められるかが分かりやすくな  
ります。ウェルビーイング指標は  
人々にとっての「心の羅針盤」のよ  
うなものだと思います。

市長 今はデジタル化が進み、アン  
ケート調査をオンラインで実施し  
て大量のデータを分析することが  
できます。

議長 ウェルビーイング指標を取  
り入れて毎年調べていけば、幸せに  
寄与する要因が見えてきそうです  
ね。結果を見ながら年代や地域な  
どに合わせたさまざまな政策がで  
きそうです。

市長 南雲さんがおっしゃる「心の  
羅針盤」がないと、目先の問題解決

や利益を優先してしまうかもしれません。中長期的に取り組むべきまちづくりが、後回しになりかねないという危機感を持っています。

**南雲** 指標があれば取り組みが本来の意図と違う方向に進んでしまうことを避けられます。迷ったときにはいつでも確認することができるのです。

### 幸福感との関係を探る

**南雲** 例えば「健康寿命」って政策では重要視しますよね。でも「健康寿命」と「幸福感」は実は直接的にはつながっていないのです。年を取ってもただ健康で人の手を借りずに生きていくことと、幸せだと感じることは別なのです。では、健康と幸せをつなぐものは何かと考えたときに、それが「生きがい」なのか「地域に自分の居場所があること」なのか「周囲から感謝されていること」なのか…などと考えていく必要があります。

**市長** 一見、ウェルビーイングに直結するような項目一つをとっても、より具体的な要因を探っていかなければいけませんね。

**議長** くわしく調べてみれば、関係がなさそうな物事が大きく関与している場合もあるということですね。

### 誇りを持てるまちに

**市長** 今年は音楽や美術など、芸術文化の推進に積極的に取り組みたいと考えています。市のウェルビーイング指標でも幸福感との関係性が強く出た分野です。例えば施設に行ったら花が飾ってあったり、駅前で絵画が鑑賞できたり、音楽があちらこちらで聞こえていたりするようにすれば「最近何だか気分がいいな」と感じるのではと思います。

**南雲** 自己表現や心が潤うような場があるまちは、住みやすく、人や幸せの要因が集まって来る傾向があります。

ことに直結するのではないでしょうが。

### 豊かさや幸せへの思いをつなぐために

**市長** 今の子どもたちは親の世代ほど豊かになれないと思って諦めているという話を聞くことがあります。私たちの親の世代は、もっと

CHECK!

### 昨年開催された音楽イベント

わがまち加古川70選名所コンサート



歴史や自然を感じる地域の名所で音楽を楽しむ

ティーンズコンサート



地域の高等学校吹奏楽部が参加

議場コンサート



いつもは議会が開かれている場所が会場に

加古川河川敷イベント



広々とした会場で行われたライブイベント

ほか

### ウェルビーイング指標

人々の「暮らしやすさ」と「ウェルビーイング(幸福感)」を指標で数値化・可視化したもの。加古川市では、以下の6項目が市民の幸福度との関係性が強かった。



参照:一般社団法人スマートシティ・インスティテュート「地域幸福度(Well-Being)指標」

あります。芸術文化の発表の場が数多くあるのは、とても良いことですね。

**議長** 芸術文化の推進は議会としても注目しています。昨年は市内の名所や議場でのコンサートをはじめ、河川敷や駅前でのイベントにも、多くの観客が来られました。現

代は物も情報も簡単に手に入るし、心の癒しや人とのつながりのようなものを求めている人が多いのかなと感じます。

**南雲** そうですね。また市民の皆さんが楽しそうにしている姿をSNSなどで発信し、全国に広めていくのも良いと思います。

貪欲に豊かになろうという風潮があったと思うのです。

**南雲** 日本だけでなく多くの先進国が今より豊かになることはないと思料もありません。その中で、明日は今日より良いだろうという期待を持てるまちにしなければ、子どもたちに幸せの実感訪れないと思います。その「良い」が何なのかを提示する責任は、大人にあると思うのです。市ならではの幸福論を作るとか、データを蓄積していくこともとても大切なことです。

**議長** 市民の皆さんが幸せだと思えるまちづくりのために、市長には多角的に政策に取り組んでいただきたいです。そして、人生の節目に「ああ幸せだなあ」「加古川に住んで良かったなあ」と思ってもらえるような取り組みを議会としても評価し、支持していきたいと思っています。

ものとして根付いていくといいなと思っています。

**市長** 今年も市民の皆さんが幸せを実感できるようなまちづくりに取り組みます。ウェルビーイング指標を参考にしながら、中長期的にどんなまちにしていきたいのかを明確にし、取り組みを進めていきます。これからの加古川市に期待してください！

心豊かな暮らしを目指します！

